＜レポート３＞放送や通信が情報社会を支え、豊かな生活を送ることができていることを知り、大変刺激を受けた

＜はじめに＞

　今回私は、総務省東海総合通信局のインターンシップに参加しました。この実習に参加した理由は、東海総合通信局の情報通信に関わる業務に強い関心を抱いていたからです。私は、大学でメディア・コミュニケーションを専攻しており、情報通信について日々学んでいます。情報通信とは、人々の充実した生活を支える技術であり、それは全ての人が享受できるものであるべきだと私は考えています。しかし、情報通信が全地域において浸透しないことには、全ての人に情報通信の利益をもたらすことはできません。そこで、私は情報通信の普及を促進する立場である総務省の情報通信業務に興味を持ちました。総務省は、国の行政機関として日本の情報通信を統括しています。そのような総務省の情報通信業務について調べていくうちに、日本各地に設置されている総合通信局という組織の存在を知りました。これは総務省の地方機関で、より各地域に適した形で情報通信を支えています。東海総合通信局における経験を通して、全ての人が情報通信の恩恵を受けるための方法について学び、また情報通信の現場から情報通信そのものについての理解を深め、自身が望む情報社会について深掘りすることを目的に、今実習に向かいました。

＜放送業務について＞

　私は、９月７日(木)に行われた職場体験Ｖに取り組みました。この実習プログラムは、主に放送について取り上げられていました。東海総合通信局には放送部という部署があり、そこでは各放送局について、許認可や監督を行っています。最初に、その放送部における業務について説明を受けました。放送部の業務は、放送における現状と結びついたものでした。そこから、放送部の業務について学ぶと同時に、放送における問題や課題について学ぶことができました。具体的には、インターネットの台頭によって、放送の役割が変化しているということについてです。「テレビ離れ」という言葉もあるように、放送サービスの需要は年々減少していると言わざるを得ません。従って放送事業は、今までのような運営では成り立たなくなっています。しかし放送には、インターネットとは別の活用方法があります。放送には具体的に、インターネットにはない社会性があります。加えてその形態から、災害時における活用が期待されています。災害時については、テレビやラジオによる放送は極めて高い有効性が認められているのです。

　そのような放送の特性と放送事業の実態を踏まえた取り組みが、機器の貸与による「臨時災害放送局」の開局です。「臨時災害放送局」とは、災害が発生した場合に、地方公共団体等が住民への情報伝達手段として、臨時かつ一時的に開設することのできる FM ラジオ放送局です。その地域専用の放送局として、地域ごとのきめ細かい災害情報を提供することにより、被害の軽減や被災者の生活支援に役立てることが大きな利点です。総務省では、「臨

時災害放送局」開設用の機器一式を全国 11 の総合通信局等にそれぞれ 2 セット配備しています。災害時にはそれを無償で貸し出すことで、地方公共団体等の情報発信を支えることができるのです。

＜ローカル 5 G について＞

また、ローカル 5G という通信システムについて学ぶ機会を得ました。ローカル 5G とは、全国的にサービスを提供する携帯事業者とは別の、主に建物内や敷地内での利活用について個別に免許される 5G システムのことです。地域の企業や自治体等の様々な主体が、地域や産業の個別のニーズに応じて、自らの土地内で柔軟にそれを構築できます。利点として挙げられるのは、そのカスタマイズ性です。地区ごとに 5G システムを展開するため、携帯事業者のエリア展開外の地域においても 5G システムを利用することが可能になり、また他の場所の通信障害や災害などの影響を受けにくいです。更に、使用用途に応じて必要となる性能を設定することができるため、個別最適化を図ることができます。そのようなローカル 5G の普及促進に向けて、総務省は地域課題解決型ローカル 5G 等の実現に動いています。様々な課題解決や新たな価値創造等の体現化に向けて、地域の企業等をはじめとする多様な主体が個別のニーズに応じてローカル 5G を柔軟に運用するための制度整備や、汎用的かつ容易に利用できる仕組みを形成しています。その上で地域の各企業は、具体的な利用シーンでの開発実証を実施し、現実の利活用へ取り組んでいます。今回は、「なごのキャンパス」においてローカル 5G に取り組んでいらっしゃるスターキャット・ケーブルネットワーク株式会社の担当者様から、具体的な取組事例についてご説明いただきました。ローカル 5G の特徴を「通信エリアの広域性・通信の安定性」とし、それを活かした形でのローカル 5G 取組について模索されていました。ローカル 5G は、そのシステムを広げるエリアについて通信局が監督するため、一定のエリアにおける通信が確保され、かつ各通信の混信を防ぐことができるからです。スターキャットの担当者様は、「なごのキャンパス」をローカル 5G 実証実験地とし、メーカーをはじめとする様々な企業と連携して開発に奮闘していました。遠隔操作をはじめ、実用化を観点にローカル 5G の利用促進に積極的に取り組んでいました。

＜まとめ＞

以上、実習を通して、放送・通信の領域における総務省、そして東海総合通信局という組織の重要性を改めて感じました。放送については、放送業界が低迷期に陥った中、放送ならではの活路を見出し、その支援に取り組んでいました。また通信については、ローカル 5G という新たなシステムを活用するために、その制度整備と促進に取り組んでいました。両者に共通することは、これまで以上に国民の暮らしを充実させるべく、それらに取り組んでいる点です。東海総合通信局は、国民の視点に立ち、国民生活の利便性向上のために、放送や通信の更なる普及や最適化を図っていました。放送・通信の仕組みを整え、また改善することを通して国民を支えるこの業務は、人々の生活を根本から支えるものであると私は考え

ます。それは、私が今考えている情報社会に通じるものでした。今まで自分の目に入らなかった部分において、このような形で放送や通信が支えられており、またその上で自身が豊かな生活を送ることができていると知り、大変刺激を受けました。国民の生活に貢献することができる総務省と東海総合通信局の働きは、私にとって非常に魅力的なものに映りました。このインターンシップにおける体験を通し、様々な気づきを自分の中に得ることができました。このような貴重な機会をいただき大変感謝するとともに、この経験をこれからの学びや進路選択に生かしていきたいと思います。

（2691 文字）

【参考】

実習の際にいただいた各種資料

・放送課・有線放送課業務説明

・災害対応等の業務体験(放送)

・ローカル 5G の普及展開に向けて

・総務省　報道資料

総務省

https://www.soumu.go.jp/

(2023 年 9 月 11 日アクセス)

総務省東海総合通信局

https://www.soumu.go.jp/soutsu/tokai/

(2023 年 9 月 11 日アクセス)

以上